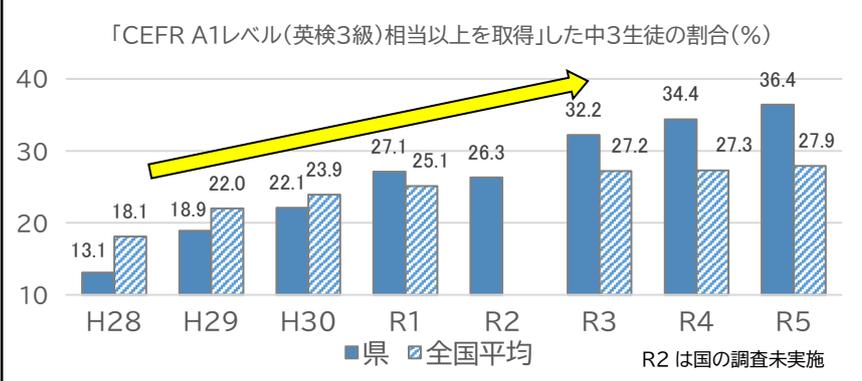


令和5年度 英語教育実施状況調査結果概要について

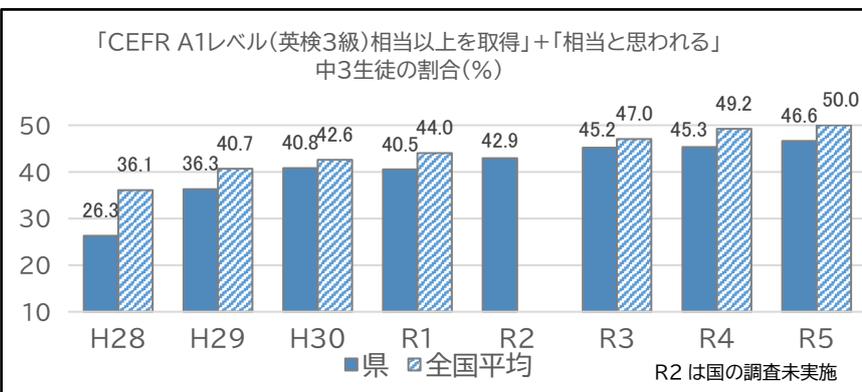
国の令和5年度「英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、熊本県の結果概要をまとめました。
 また、今回明らかになった本県の英語教育に係る課題改善に向けて、別添2「令和6年度 熊本県英語教育改善プラン」を作成しました。
 各市町村教育委員会、学校等において、英語教育の充実に向けた活用をお願いします。

1 中学生の英語力

【現状】「CEFR A1レベル（英検3級）相当以上取得」した生徒の割合
 県平均：36.4%（R4比 +2.0ポイント）※国平均：27.9%
「CEFR A1レベル（英検3級）相当以上取得」+「相当と思われる」生徒の割合
 県平均：46.6%（R4比 +1.3ポイント）※国平均：50.0%

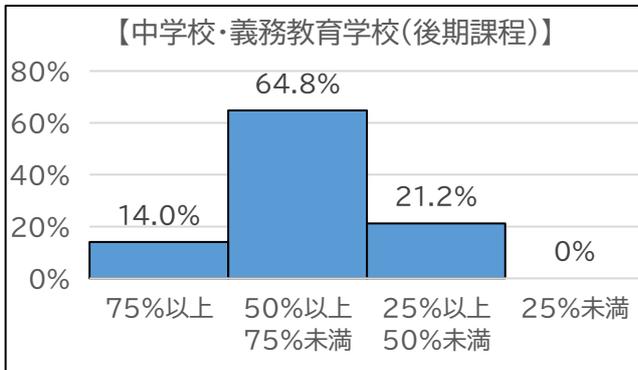
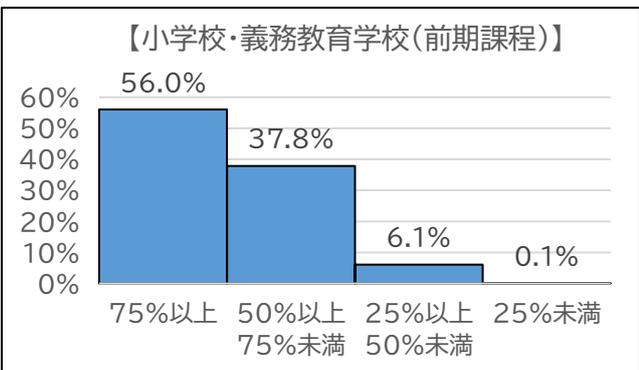


【成果】
 ○県、市町村教育委員会及び各中学校等での一体的な取組により「取得」の割合は年々着実に向上している。
【課題】
 ○R2～R5年度までの本県の目標である「取得」した生徒の割合40%は達成できなかった。
 ○「相当と思われる」生徒の割合の伸び率が低迷しており、「取得」と同程度の英語力を持つ生徒を増加させるための全体的な英語力の底上げが必要である。



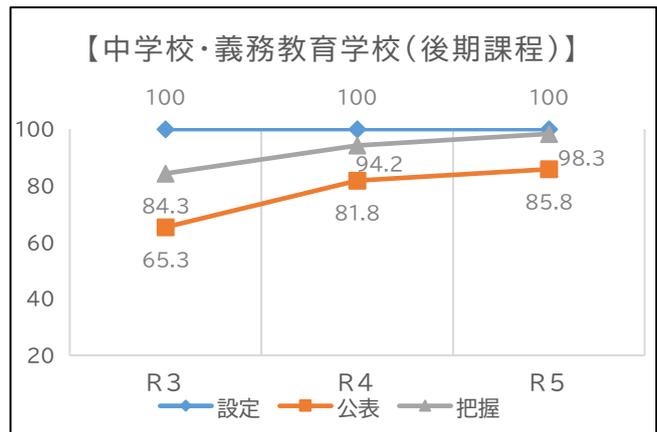
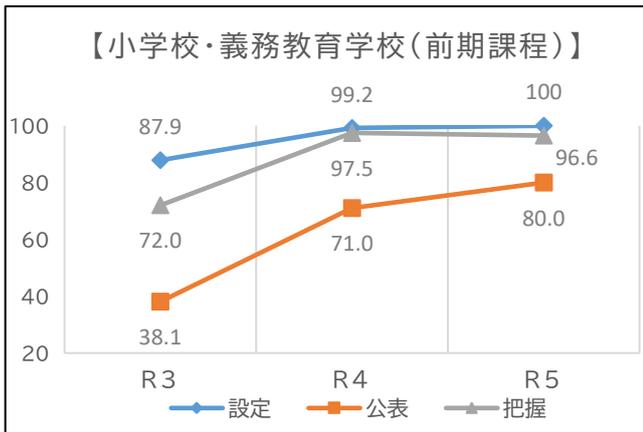
(参考)
 国の第4期教育振興基本計画(R5～R9)では、中学校卒業段階で、CEFR A1レベル(英検3級)相当以上を達成した生徒の割合6割以上を目標としている。

2 児童生徒の英語による言語活動の状況



【成果】 ○小学校等では、9割以上の学校が半分以上の時間、言語活動を行っている。
【課題】 ○中学校等における言語活動の割合は、小学校等と比較して大きく減少している。
 ○言語活動の割合が50%に達していない学校が一定数あり、学校間において言語活動の量に差が生じている。

3 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握



【成果】○英語を使って何ができるようになるか」という観点による「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の「設定」については、小学校等、中学校等ともに100%に達している。

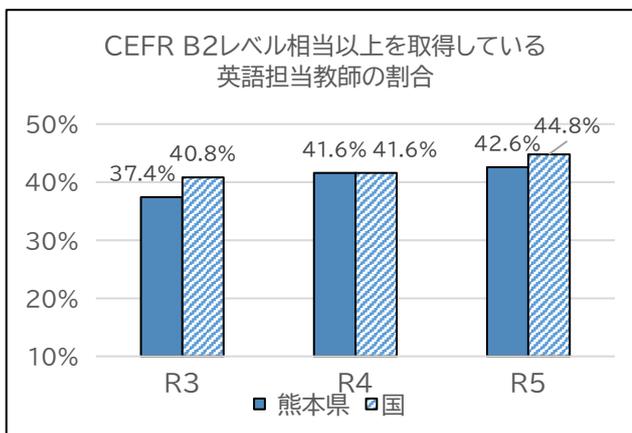
【課題】○学習到達目標を設定しているものの、達成状況を把握していない学校や公表していない学校が一定数あり、効果的な活用に課題がある。

(参考)

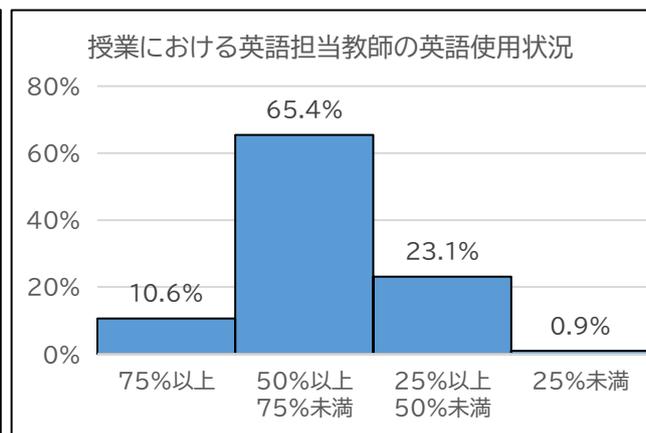
学習指導要領では、外国語科の目標を各領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り]・話すこと[発表]・書くこと)ごとに「何ができるようになるか」という観点で設定していることを踏まえ、「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標の設定と学習評価への活用等を普及する必要がある

4 英語担当教師の英語力・指導力に関すること (中学校・義務教育学校後期課程)

○英語担当教師の英語力



○英語担当教師の英語使用状況



【成果】○CEFR B2レベル相当以上を取得している割合は、増加傾向にある。また、約7割以上の中学校等で英語担当教師が発話の半分以上を英語で行っている。

【課題】○英語使用状況が50%に達していない中学校等が一定数あり、学校間で差が生じている。

(参考)

中学校学習指導要領 第2章第9節 外国語 3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1)指導計画の作成上の配慮

エ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにする。

5 ICT機器の活用状況

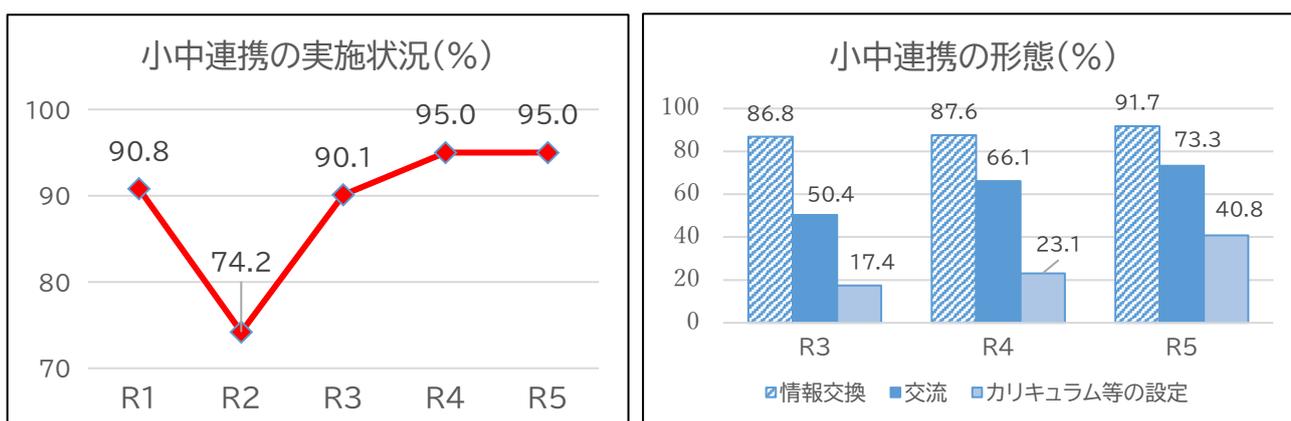
()内は国の平均値

以下の活動に ICT 機器を活用した割合	小学校等(%)	中学校等(%)
児童生徒が学習者用デジタル教科書を活用した授業【R5 新規】	84.3(82.1)	92.5(90.8)
児童生徒がデジタル教材等(デジタルドリルや動画等のコンテンツ)を活用した授業※学習者用デジタル教科書は含まない【R5 新規】	85.5(78.7)	93.3(89.4)
児童生徒が1人1台端末を活用した授業	99.6(96.4)	100(99.4)
児童生徒が1人1台端末・パソコン等を用いて発表や話すことにおけるやり取りをする活動	93.6(88.9)	93.3(93.2)
児童生徒による発話や発音などの録音・録画	83.4(69.6)	80.8(82.7)
児童生徒がキーボード入力等で書く活動	77.4(71.6)	91.7(89.9)
児童生徒が電子メールや SNS、チャットを用いたやり取りをする活動	5.5(9.9)	20.0(20.9)
児童生徒が遠隔地の児童生徒等と英語で話をして交流する活動	17.9(12.9)	9.2(12.8)
遠隔地の教師や ALT 等とチーム・ティーチングを行う授業	9.4(7.0)	4.2(7.4)
児童生徒が遠隔地の英語に堪能な人と個別に会話を行う活動	9.4(5.2)	8.3(7.3)

【成果】○全ての学校が ICT 機器を活用しており、特に、デジタル教科書や1人1台端末の活用が多くの小学校等及び中学校等で図られている。

【課題】○遠隔地の人々と交流する活動等での ICT 機器の活用が進んでいない。

6 英語教育に関する小中連携の実施状況 (中学校・義務教育学校後期課程回答)



【成果】○小学校等との交流、カリキュラム等の設定に取り組んだ中学校等の割合が伸びている。

【課題】○小中連携の実施状況は95%にとどまっており、実施していない学校が一定数ある。